

2022年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年8月6日
東

上場会社名 ギークス株式会社 上場取引所
 コード番号 7060 URL https://geechs.com
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 曾根原稔人
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 佐久間大輔 (TEL) 050-1741-6928
 四半期報告書提出予定日 2021年8月6日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第1四半期の連結業績 (2021年4月1日～2021年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	1,077	54.1	51	△58.5	54	△49.2	28	△52.3
2021年3月期第1四半期	699	△42.4	124	△54.5	108	△61.0	60	△66.3

(注) 包括利益 2022年3月期第1四半期 25百万円(△57.6%) 2021年3月期第1四半期 60百万円(△65.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第1四半期	2.75	2.70
2021年3月期第1四半期	5.78	5.67

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第1四半期	5,109	3,755	73.5
2021年3月期	6,486	3,830	59.1

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 3,755百万円 2021年3月期 3,830百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2022年3月期	—	—	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,000	45.9	1,000	35.4	1,000	40.1	600	31.1	57.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) - 、除外 一社(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2022年3月期1Q	10,526,600株	2021年3月期	10,513,440株
2022年3月期1Q	40,149株	2021年3月期	40,104株
2022年3月期1Q	10,479,578株	2021年3月期1Q	10,432,939株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当社グループはグランドビジョンに「21世紀で最も感動を与えた会社になる」を掲げ、ITフリーランスのデータベース、グローバルで活躍するITエンジニア育成など人材インフラを活かし、インターネットの普及によりめまぐるしく変化する人々の生活や企業の行動を積極的に捉え、変化対応力を強みに、提供サービスの創造・進化を通じて常に成長し続けることで、永続的な企業価値向上を目指しております。当社グループは子会社3社を含む全4事業で構成されており、各事業セグメントは「IT人材事業」、「ゲーム事業」、「x-Tech事業」、「Seed Tech事業」の4つに分類されております。

なお、当第1四半期連結会計期間より、従来の「IT人材育成事業」から「Seed Tech事業」へとセグメントの名称を変更しております。なお、当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

当第1四半期連結累計期間（2021年4月1日～2021年6月30日）における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の全世界的拡大の影響が長期化しております。日本経済においても、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言の度々の発令により経済活動が抑制され、非常に厳しい状況が続いております。各国でワクチン接種が進んでおり、事態の収束に向けた動きもみえているものの、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下、当社グループは、2021年5月14日開示の中期経営計画「G100」（2022年3月期～2025年3月期）で掲げた方針に基づき、各種施策に継続的に取り組んでまいりました。デジタルシフトを進める企業と、新しい働き方を模索する個人それぞれの需要を捉え、技術リソースシェアリングプラットフォームとして役割を果たすべく事業体制を構築してまいりました。

このような状況の中、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,077,846千円（前年同期比54.1%増）、営業利益は51,809千円（同58.5%減）、経常利益は54,934千円（同49.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は28,771千円（同52.3%減）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等の適用により、売上高は289,719千円増加し、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益に与える影響はありません。

セグメント別の業績は次の通りであります。

<IT人材事業>

IT人材事業におきましては、事業環境は好調に推移いたしました。長引くコロナ禍にて、各企業でリモートワークの受入体制が整ったことで、8割以上のITフリーランスがリモートワークを取り入れるなど、既存の働き方に大きな変化がみられました。こういった環境変化に対応するため、サポート体制を拡充し、企業およびITフリーランスとの細やかなコミュニケーション、ITフリーランス向けの福利厚生制度「フリノベ」の拡充や各種オンラインセミナー等を実施してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当該事業分野の売上高は416,635千円（前年同期比16.3%増）、セグメント利益は226,494千円（同10.6%増）となりました。

<ゲーム事業>

ゲーム事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響は見受けられず、堅調に推移いたしました。株式会社バンダイナムコエンターテインメントが配信する「僕のヒーローアカデミア ULTRA IMPACT」や株式会社バンダイナムコオンラインが配信する「アイドリッシュセブン」をはじめとした4本のタイトルの運営と、3本の新規タイトルの開発を行っております。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当該事業分野の売上高は555,692千円（前年同期比116.9%増）、セグメント損失は59,067千円（前年同期はセグメント利益14,298千円）となりました。

<x-Tech事業>

x-Tech事業におきましては、最先端の技術や手法を活用し、「テクノロジー×データ」で、ビジネスモデル変革のテクノロジーパートナーを目指し、主に最先端のAR（拡張現実）などの技術を活用したアプリや動画制作、スポーツ領域のデジタルマーケティング支援やD2C支援を行っております。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当該事業分野の売上高は71,702千円（前年同期比36.6%増）、セグメント利益は1,749千円（前年同期はセグメント損失8,040千円）となりました。

<Seed Tech事業>

Seed Tech事業におきましては、当第1四半期連結会計期間より、前連結会計年度に設立した子会社のシードテック株式会社が本格的に営業を開始し、オンデマンド型プログラミングスクールサービスとオフショア開発受託事業を推進してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当該事業分野の売上高は33,815千円（前年同期比4.5%減）、セグメント利益は3,732千円（前年同期はセグメント損失2,938千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第1四半期連結会計期間末の流動資産の残高は前連結会計年度末と比較して1,406,695千円減少し、4,508,795千円となりました。これは主に仕掛品が1,114,422千円減少したことによるものであります。

(固定資産)

当第1四半期連結会計期間末の固定資産の残高は前連結会計年度末と比較して29,913千円増加し、600,726千円となりました。これは主に建物および構築物（純額）が43,829千円減少した一方、敷金及び保証金が56,802千円、繰延税金資産が18,262千円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第1四半期連結会計期間末の流動負債の残高は前連結会計年度末と比較して1,300,755千円減少し、1,345,912千円となりました。これは主に前受金が1,125,380千円減少したことによるものであります。

(固定負債)

当第1四半期連結会計期間末の固定負債の残高は前連結会計年度末と比較して843千円減少し、8,295千円となりました。これは主にリース債務が957千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産の残高は前連結会計年度末と比較して75,182千円減少し、3,755,314千円となりました。これは主に利益剰余金が75,961千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の連結業績予想につきましては、2021年5月14日の「2021年3月期 決算短信」で公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,149,695	2,736,033
売掛金	1,518,823	-
売掛金及び契約資産	-	1,651,748
仕掛品	1,117,488	3,066
貯蔵品	410	623
前渡金	14	119
前払費用	81,789	85,072
その他	49,840	34,623
貸倒引当金	△2,572	△2,492
流動資産合計	5,915,490	4,508,795
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	60,687	16,857
工具、器具及び備品（純額）	6,574	7,372
リース資産（純額）	15,465	17,168
有形固定資産合計	82,726	41,398
無形固定資産		
ソフトウェア	1,006	899
無形固定資産合計	1,006	899
投資その他の資産		
投資有価証券	109,912	109,912
敷金及び保証金	169,202	226,005
長期前払費用	7,338	3,622
繰延税金資産	200,626	218,888
投資その他の資産合計	487,080	558,428
固定資産合計	570,813	600,726
資産合計	6,486,303	5,109,522

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	858,138	891,367
未払金	35,514	79,076
未払費用	28,235	36,961
未払法人税等	337,593	50,034
未払消費税等	144,805	52,039
預り金	29,088	35,341
前受金	1,125,380	-
契約負債	-	105,918
前受収益	20,526	18,611
資産除去債務	55,662	55,742
リース債務	11,721	13,501
その他	-	7,318
流動負債合計	2,646,667	1,345,912
固定負債		
リース債務	7,101	6,144
その他	2,037	2,150
固定負債合計	9,139	8,295
負債合計	2,655,807	1,354,207
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,094,214	1,096,210
資本剰余金	1,044,157	1,046,153
利益剰余金	1,714,342	1,638,381
自己株式	△21,155	△21,208
株主資本合計	3,831,559	3,759,537
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△1,073	△4,223
その他の包括利益累計額合計	△1,073	△4,223
非支配株主持分	10	-
純資産合計	3,830,496	3,755,314
負債純資産合計	6,486,303	5,109,522

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)
売上高	699,635	1,077,846
売上原価	229,599	601,048
売上総利益	470,035	476,798
販売費及び一般管理費	345,220	424,989
営業利益	124,815	51,809
営業外収益		
受取利息	17	1
講演料収入	100	-
補助金収入	-	1,330
為替差益	-	2,402
その他	-	50
営業外収益合計	117	3,784
営業外費用		
支払利息	-	36
為替差損	787	-
株式交付費	15	25
市場変更費用	15,859	-
コミットメントフィー	184	596
営業外費用合計	16,847	658
経常利益	108,085	54,934
税金等調整前四半期純利益	108,085	54,934
法人税、住民税及び事業税	84,841	43,519
法人税等調整額	△36,955	△17,345
法人税等合計	47,886	26,173
四半期純利益	60,198	28,760
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△70	△10
親会社株主に帰属する四半期純利益	60,269	28,771

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益	60,198	28,760
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	237	△3,149
その他の包括利益合計	237	△3,149
四半期包括利益	60,435	25,611
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	60,505	25,621
非支配株主に係る四半期包括利益	△69	△10

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、ゲーム事業における受託開発売上に関して、従来は、検収基準によって収益を認識しておりましたが、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生する費用を回収することが見込まれる為、原価回収基準にて収益を認識しています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、売上高及び売上原価がそれぞれ289,719千円増加して、流動資産及び流動負債がそれぞれ1,112,291千円減少しております。営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益並びに利益剰余金期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、当第1四半期連結会計期間より「売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。また、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「前受金」は、当第1四半期連結会計期間より「契約負債」に含めて表示することとしました。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間より、従来の「IT人材育成事業」から「Seed Tech事業」へとセグメントの名称を変更し、また、報告セグメントの記載順序を変更しております。これに伴い、前第1四半期連結累計期間の報告セグメントの名称及び記載順序を同様に変更しております。

前第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注1)	四半期 連結損益計 算書 (注2)
	IT人材 事業	ゲーム 事業	x-Tech 事業	Seed Tech 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	358,286	256,174	52,493	32,680	699,635	-	699,635
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	2,744	2,744	△2,744	-
計	358,286	256,174	52,493	35,424	702,379	△2,744	699,635
セグメント利益 又は損失(△)	204,826	14,298	△8,040	△2,938	208,146	△83,331	124,815

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△83,331千円には各報告セグメントに配分していない全社費用△86,587千円及びセグメント間消去取引3,256千円が含まれております。

2 セグメント利益又は損失の合計額と調整額の合計は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注1)	四半期 連結損益計 算書 (注2)
	IT人材 事業	ゲーム 事業	x-Tech 事業	Seed Tech 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	416,635	555,692	71,702	33,815	1,077,846	-	1,077,846
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	416,635	555,692	71,702	33,815	1,077,846	-	1,077,846
セグメント利益 又は損失(△)	226,494	△59,067	1,749	3,732	172,908	△121,099	51,809

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△121,099千円には各報告セグメントに配分していない全社費用△129,199千円及びセグメント間消去取引8,100千円が含まれております。

2 セグメント利益又は損失の合計額と調整額の合計は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。当該変更により、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の「ゲーム事業」の売上高は289,719千円増加しておりますが、セグメント損失への影響はありません。